

令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	5	学校名	静岡聴覚特別支援学校	記載者	副校長 池田昌史
------	---	-----	------------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	学校安全、危機管理の体制と様々な災害に備える教育（防災、感染防止）	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の新しい生活様式に基づき、感染拡大防止対策を徹底することができた教員 AB100% ○感染しないよう行動することができた幼児児童生徒 AB100% ○学校は感染対策を十分講じていると回答する保護者 AB90%以上 ○防災訓練の回数を増やしたことで防災意識が高まった教員 AB90%以上 ○発達段階・聴覚障害に応じた実践的な防災教育ができた教員 AB100% ○本校学校安全計画に基づき、計画的に安全教育を行うことができた教員 AB90%以上 ○保健だよりや掲示内容を基に学級での保健指導の充実。保健指導が充実した教員 AB100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、防災は危機、災害をどう想定するかにより対応が変化する。具体的な内容がよくわからない。 ・防災、コロナ感染に対しての行動が充実できていると思う。 ・口元が見えないと、コミュニケーションに支障があると思いますが、少人数であることの利点を生かして十分に対応できている。 ・個人情報の関係からだと承知の上で、「感染者が出た。」「通常通り行う。」という連日のメールの内容だけで安心して子供が通えなかった。メールを受け取る立場で情報発信の工夫してほしい。
イ	他者を尊重し、思いやりの気持ちを大切にすることができる子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに思いやりの心を育てる教育ができたと回答する教員 AB90%以上 ○自分や友達の良さに気づくことができた児童生徒 AB100% ○人間関係でトラブルが無いと回答する保護者 AB80% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「実際の生活の中での指導が必要」とはどうするのでしょうか。人間関係のトラブルがなければ、思いやりの気持ちは身につかないのではないかな。 ・思いやり、他人に対しての尊重や優しさは、日頃の生活の中から生まれる。学校のみならず、家庭教育と環境が重要かと思えます。
ウ	健康な生活を教員も実践	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外業務が月 45 時間以内の教職員 AB100% ○所属学部は業務改善の意識をもって会議や行事を精選したと回答する教員 AB90%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活と業務改善は、直接は関係ないのではないかな。定時帰宅と保護者対応の在り方が問題になるのではないかな。 ・健康な生活は、各人それぞれ自分に対しての厳しさも必要か

様式第5号

		<ul style="list-style-type: none"> ○自分は業務改善したと自己評価する教職員 AB90%以上 ○相談しやすい職場と回答する教職員 AB100% ○セルフチェックをしたことにより意識が向上した教員 AB90%以上 			<p>と思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてもオーバーワークになってしまうのではないかと推察します。
エ	<p>カリキュラムマネジメントによるつながりのある教育課程の編成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科横断的な視点で定期的に年計を見直すことができた教員 AB90%以上 ○計画的・効果的な予算運用 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの到達目標が示されていない。(どの程度の学力をつけさせるのか。) ・カリキュラムが学校の顔であると考え、大切な視点に御留意いただいていることが分かります。
オ	<p>子どもが主体的に学び合い「授業が楽しい」「授業がわかる」といえる授業づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業が楽しいと回答する児童生徒 AB100% ○授業がわかると回答する児童生徒 AB100% ○学校の授業はわかりやすいと回答する保護者 AB100% ○全体研修で校外助言者からの指導助言を受け、授業改善ができた教員 AB90%以上 ○学部研修により授業改善ができたと回答する教員 AB100% ○研修課、自立活動課の働きかけで障害特性を踏まえた「わかる授業」づくりを心掛けた教員 AB90%以上 ○「スキルちゃん」を授業づくりに活用することができた教員 AB100% ○「スキルちゃん」を意識して子どもたちに接することができた教員 AB100% ○手話学習会等により手話の技能が向上した教員 AB80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は楽しい、わかるだけでなく、到達目標に達したかの評価が大切だと思う。 ・子どもたちが「自分たちの学校だ。」という安心感をもって学べるのがとても尊いことだと思います。 ・学校でわからないところを聞こうとするものの、時間がないことからそのまま持ち帰り、家で補うことになる。一方的と思われる授業もある。
カ	<p>ICT を活用した効果的な学び(幼稚部、小学部、中学部)の充実と共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT 活用能力が向上したと回答する教員 AB90%以上 ○子ども自身が PC やタブレット端末に触れる機会を設定した教員 AB90%以上 ○PC やタブレット端末等の機器を使うのが楽しいと回答する児童生徒 AB80%以上 ○PC やタブレット端末等の機器を使う授業はわかりやす 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キューサイン、手話との関連で音声認識システムの位置づけを明確にすべき。ICT 利用は個別指導に有効なので授業形態の見直しも考慮すべき。 ・今の時代はデジタルコンピューターの時代であり、いろんな面で拡充、促進が大事かと思います。 ・テレビニュースなどでも「音声

		<p>いと回答する児童生徒 AB90%以上</p> <p>○補聴援助システムを使用して授業を行った教員 AB100%</p> <p>○音声認識システムを活用した小中学部教員 AB80 以上</p>			<p>認識システム」を見かけるようになりました。聴覚障害者のみならず、多国語にも配慮したもので、これが機能すると良いと思う。</p> <p>・中学部は P C をほぼ使っていないとのことなので活用してほしい。</p>
キ	<p>専門性を生かした乳幼児教育相談の充実</p>	<p>○教育相談マネージャーとの連携を図り、教育相談事業が充実したと回答する教員 AB100%</p> <p>○情報交換会で得た知識を校内掲示板で提供し、乳幼児教育相談を知ることができたと回答する教員 AB90%以上</p> <p>○乳幼児の発達に関する保護者学習会を年間 4 回以上実施し、適切な情報提供をする。事後アンケートで有意義だったと回答する保護者 AB90%以上</p>	B	B	<p>・ことばの習得期のサポートが、その子の人生に大きく影響するので、力を入れていただいているありがたいと思います。</p>
ク	<p>在籍校から頼られる通級指導教室の充実</p>	<p>○在籍校訪問実施率 90%</p> <p>○在籍校に対するアンケート実施。満足したと回答する学校 100%</p>	B	B	<p>・「在籍校に対するアンケート」とは、誰に対するものでしょうか。通級児童本人の満足度に対する評価はどうなっているのか。</p>
ケ	<p>コロナ禍における学校理解のための情報発信</p>	<p>○学部ごと月 1 回ホームページを更新し、学習活動を発信する</p> <p>○学部ごと年間 2 回以上、学校間交流校や交流籍校に向けて本校の紹介や学習の様子を発信する</p>	A	A	<p>・聴覚障害者は健聴者と比べて情報不足は否めないが、情報発信の努力は評価できます。</p> <p>・大変な 2 年間だったと思いますが、工夫して乗り越えていくことが良かったと思います。</p>